


活動報告

公益社団法人 兵庫県建築士会 構造研究会	
事業名	第36回構造セミナー 回転埋設鋼管杭で建物を支える ～施工性を考慮した設計へ～
日時	令和5年6月17日(土) 14時～16時30分 兵庫県民会館1202号室
参加者	20名(会員19名、非会員1名)
内容	<p>第36回となる今回の構造セミナーは、基礎杭の中でも採用機会の多い回転埋設鋼管杭について、開発から実務設計まで幅広く携わる講師をお迎えし、その基本を再確認するとともに施工性を考慮した設計法について講義していただいた。</p> <p>講義は、細野久幸氏(誠信 GLOCAL 株式会社)が下記項目について詳細に解説された。また、長谷川翔氏(同)が自社の杭について紹介された。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建物を支える各種工法と回転埋設鋼管杭 2. 回転埋設鋼管杭の支持力機構(先端 押込と引抜) 3. 敷地状況と支持力 4. 地層構成と支持力(2層地盤の検討, 支持層の確認方法) 5. 設計建物の規模と支持力 6. 鋼管の継手(現場溶接, 機械式) 7. 鋼管杭の杭頭接合部(支圧, 鉄蓋, ズレ止め) 8. 地震時水平抵抗 9. 保有水平耐力をどのように考える 10. 施工性を考慮した設計法のまとめ <p>参加者の職域は、構造設計者、意匠設計者、施工者、行政などであった。これまでの基礎杭をテーマとしたセミナーとは少し視点を変えた、施工性を考慮した杭設計という内容は非常に充実したものであり、丁寧でありつつ時にユーモアを交えた講義を参加者は熱心に受講されていた。質疑応答の際は、構造設計者だけでなく、現場で工事監理をされる意匠設計者からも質問があり、関心の高いテーマであったことが伺える。</p> <p>今回も、遠方の支部や他府県からの参加者があった。今後も、建築士会の中の、構造を身近に勉強できる場として、適宜開催してゆくことを予定している。</p>
写真	 <p>会場風景</p>